

ゼミ形式の決定手続きに見る，複数回に渡る同一 2 択投票問題 が持つ社会的選択理論的性質

一橋大学経済学部 2117272C 横山彪人

2020 年 11 月 25 日

概要

ここにアブストラクトを書きます．

目次

1	はじめに	2
1.1	問題設定の背景	2
1.2	社会的選択理論とは何か	2
1.3	本誌の構成	2
2	多数決の問題点とベンチマークとしてのボルダルール	2
2.1	この節で述べること	2
2.2	多数決	2
2.3	ボルダルール	2
3	戦略的操作の可能性	2
3.1	この節で述べること	2
3.2	ギバート＝サタスウェイト定理	2
3.3	中位投票者定理	2
4	ゼミ形式決定問題の性質	2
4.1	この節で述べること	2
4.2	ゼミ形式決定問題の形式化	2
4.3	ボルダルールとの比較	2
4.4	単峰性との関連性	2
5	まとめ	2

1 はじめに

1.1 問題設定の背景

1.2 社会的選択理論とは何か

1.3 本誌の構成

2 多数決の問題点とベンチマークとしてのボルダルール

2.1 この節で述べること

2.2 多数決

2.3 ボルダルール

2.3.1 ボルダルールの優れた性質

2.3.2 ボルダルールの弱点

3 戦略的操作の可能性

3.1 この節で述べること

3.2 ギバート＝サタスウェイト定理

3.3 中位投票者定理

4 ゼミ形式決定問題の性質

4.1 この節で述べること

4.2 ゼミ形式決定問題の形式化

4.3 ボルダルールとの比較

4.4 単峰性との関連性

5 まとめ

参考文献

- [1] Alan Hoenig: \TeX UNBOUND \LaTeX & \TeX strategies for fonts, graphics, & more, Oxford University Press (1998).